

訪問診療通信

佐野厚生総合病院

先月までの猛暑日の日々から解放され、時には寒いなど感じながらも過ごしやすい季節となりました。食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋などさまざまな秋の楽しみ方があると思いますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。訪問診療科では、佐野市内の多くの方々とのつながりを大切にしたいと考え、この秋は診療とは異なる活動にも力を入れています。

参加報告

第5回日本緩和医療学会 関東・甲信越支部学術大会 第36回栃木県緩和ケア研究会

10月9日（月）足利赤十字病院で開催されました「日本緩和医療学会 関東・甲信越支部大会」におきまして、2022年8月から2023年8月までの13か月間の在宅看取りについてまとめ、訪問診療科の活動を報告してきました。

急性期病院の訪問診療科における 在宅看取りの活動報告

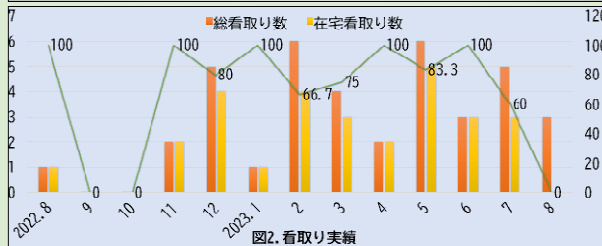
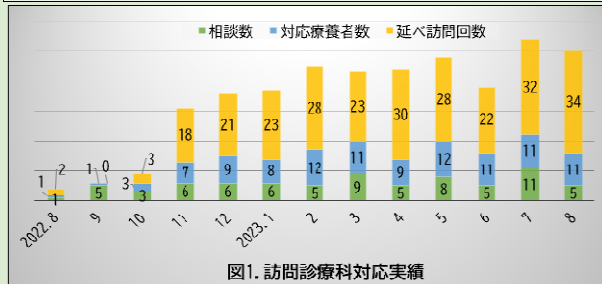
佐野厚生農業協同組合 佐野厚生総合病院 ○茶本 啓恵・東澤 俊彦

【目的】

当科では在宅での終末期療養や看取りが可能となるよう実践しており、2022年8月開設からの活動実績を紹介・報告する

【活動の概要 図1・図2】

- ◆スタッフ：医師1名、看護師4名、事務職員1名で構成
- ◆スタッフ全員が訪問診療科以外の主科業務を担当
- ◆2022年8月～2023年8月の13ヶ月間で対応療養者数106人、月平均8.2人の在宅療養者に対応
- ◆2022年8月～2023年8月の13ヶ月間でのべ訪問数は264回、月平均訪問数20.3回
- ◆2022年8月～2023年8月までに合計38名の療養者の看取りに対応
- ◆総看取り数のうち28名が自宅看取り



【成果】

- ①全療養者の80%以上に対し、がん疼痛のコントロール等の在宅緩和ケアを実践し最期まで療養を支援した
- ②在宅用のネーザルハイフローやPCAポンプなどの在宅用医療機器を使用しながらも、在宅療養が継続できるよう支援した
- ③院内からのコンサルテーションが容易であり、複雑困難な事例に対しても継続的に対応し、在宅療養の負担軽減や療養者満足度の向上に貢献した

【考察】

- ①厚生労働省の調査によるとA病院のあるB市の自宅死割合は18.2%（令和3年）であるなか、当科での総看取り数38名中在宅看取りは28名、73.7%にのぼり厚生労働省の結果を大きく上回る対応を実現した
- ②総合病院の訪問診療科として、退院調整機能などの負担軽減に役立つ一方、継続的に療養者や家族の思いに沿ったケアを提供し、高い療養者満足度が得られていると推察する

【注】「訪問診療科」に関するお問い合わせは、同科のホームページからお問い合わせください。



発表の際には、多くの学会参加者が集まって下さいました。そして、多くのご質問をいただき、在宅医療への関心の高さを実感しました。特に、医療過疎地域（いわゆるへき地と言われ、医療の確保が困難な地域のこと）の医療機関の先生から、ご称賛いただきました。

在宅医療は訪問診療だけでは成り立ちません。患者さんやご家族のご理解ご協力、在宅支援チームを構成する多職種の皆様との協働があって、はじめて機能すると思います。

この1年の多くの方とのつながりに感謝し、訪問診療科一同、精進してまいります。

開催報告

2023年度第1回佐野市多職種交流研修会

『施設看取りについて～介護3.0 その人がやりたいことを叶える～』

当院が佐野市から委託され、代表幹事を担っております当研修会を8月31日（木）に城北公民館で開催いたしました。佐野市内で就業する医療・介護・福祉職84名のご参加をいただき、盛会となりました。

講師の横木淳平先生から、「介護3.0」というその人らしい生活を取り戻すための手助けと夢をかなえる介護の実現のためのマインドを教えてくださいました。

～介護3.0とは～

その人らしい生活を取り戻すための手助けをする。そして夢を叶える介護通常ならば問題行動とされる行為も、なぜそうなったのか、本当は何をしたいのかを考えて解決していく。

<https://social-innovation-week-shibuya.jp/2020/report/3904/>から引用

講師：横木淳平先生

「その人を知る」ということを意識して関わるのがケアにつながります。何のために多職種で連携するのか。「目的・目標の共有が大切」です。



先生の経験知をご披露いただきました



多職種の皆さん真剣です

コラム～お家で過ごすために～

健康診断を受けましょう

7月1日から佐野市健康長寿推進条例が施行されました。これは、市民が生涯にわたり健やかで心豊かに暮らすことができるよう、健康長寿の実現を目的としています。生活習慣病の発症予防・重症化予防、健康診断の受診等についての取り組みを推進する内容となっています。また、佐野市ではさのまる健康アプリを導入しています。このアプリに登録すると、健康増進につながる活動をすることで、ポイントが付与されプレゼントがもらえる仕組みとなっています。皆様も、この広報誌を読んでいただいたことをきっかけに、健康について考え、健康診断を受けていただけますと幸いです。

ご紹介した活動以外に、『ケアカフェさの』にも参加させていただきました。多職種が集まり、カフェのように気楽に会話を楽しむ会です。公の場ではないため、本音トークをしつつ新しい出会いや懐かしい再開ができました。

